

ライブラリーナビゲーター Library Navigator

図書館イメージキャラクター
よむりす



立命館大学
図書館だより
2015.3
118



特集1

大阪いばらきキャンパス新図書館
「OICライブラリー」開設 P.3

特集2

図書館にはレファレンスサービスがあります P.8

図書館からのメッセージ「図書館は何をすることでしよう」 P.2

【連載】衣笠図書館の思い出～校友からのメッセージ～ P.6

レファレンスライブラリアン直撃インタビュー P.10

きっとこの本が好きになる～学生ライブラリースタッフ推薦図書～ P.12

学生ライブラリースタッフ紹介 P.14

Information P.16

図書館は何をすることでしょ

入学おめでとうございます。

「図書館」と聞くと、みなさんは何をイメージしますか。読みたい本を探す、書棚に並んでいる本を眺めて、面白そうな本を選ぶ、自分が購読していない新聞や雑誌を読む、試験勉強のスペース、デートの待ち合わせ場所……私の高校時代も、こうしたイメージでした。初めてつき合った彼女との図書館デート、45年前の話ですが、甘酸っぱい思い出です。

大学の図書館は、今、イメージ・チェンジをしています。かつてと同様、各学部・研究科専門領域の学習・研究用図書を収集し保存する役割は変わりません。書棚に並んでいる本は数が限られます。書庫に一度入ってみて下さい。圧倒されますよ。私も大学時代、書庫に入り、探していた文献を手にして感激したものです。

さてチェンジの1つは、基礎演習、ゼミやサークルの研究発表のために数人で集まって話し合う場の提供です。立命館大学では「びあら」と言いますが、何人かでその場に文献を持ってきたり、パソコンを用いて情報を集め、分析し、話し合い、報告レポートを作成する場です。仲間の考え、意見を知ることは、学習・研究の原点です。また大学時代の真の友人を得る機会でもあります。

もう1つは、パソコンを使ってデータベースやインターネットにアクセスし、さまざまな情報を収集する場です。瞬時に海外の情報も得られます（基本は英語、英語能力は必須ですよ）。また立命館大学では、所蔵する文献のデジタル化を進めています。キーワードを使って関連する所蔵文献を一気に収集することも可能になってきました。パソコンの操作は、最初は難しいかもしれませんが、図書館のスタッフが助けますので、心配りません。

衣笠、BKC、OIC、各キャンパスのみなさん、ぜひ図書館に足を運んでみて下さい。みなさんのご来館を心より歓迎します。

立命館大学図書館長
法学部教授・法学博士

二宮 周平

推薦図書

カルロス・ルイス・サフォン（スペイン）の「風の影」、「天使のゲーム」、「天国の囚人」という連作ミステリーです（集英社文庫）。2001年から刊行、4部作の3作目まで翻訳が出ました。4部作のキーワードは、第1次世界大戦、スペイン市民戦争、フランコ独裁政権下のバルセロナにある「忘れられた本の墓場」（実は壮大な市民の地下図書館）。1作目、2作目では主人公が子ども・青年から大人になっていく過程も描かれます。ストーリーの展開、幻想と現実の交錯、求めても叶わない願いの切なさなど、ミステリーの枠を超えた文学作品ともいえるものです。衣笠図書館の「読楽コーナー」に置いてもらいます。ぜひ手に取って下さい。小説の面白さが堪能できますよ。



大阪いばらきキャンパス新図書館

OICライブラリー 開設

「OICライブラリー」は2015年4月、大阪いばらきキャンパスの知と文化の創造・発信・交流の拠点であるB棟（立命館いばらきフューチャープラザ）の2階から4階に、「学びが見える、学びに触れる、学び合える」図書館として開設します。図書資料を最大約80万冊収容できるスペースがあり、総座席数は約1,100席配します。約22万冊の移設・新規購入資料でスタートし、毎年蔵書を増やしていきます。

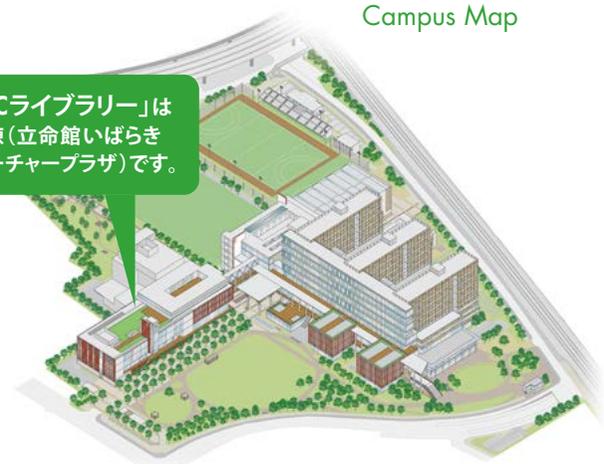
施設は、セミナールーム、グループワークテーブル、情報検索用PC、サービスカウンターを設置しているピアラーニングルーム「びあら」、電卓室、利用者の好みによって選べる様々なタイプの閲覧デスク（「Open」、「Semi-Open」、「Carrel desk」）、研究用の個人研究ブースやセミナールームなどを配しています。

また蔵書については、利用者の利便性を考慮した、豊富な新刊書や語学書（多言語：英語、イタリア語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、日本語、中国語、韓国語、ロシア語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語）の収集、「アジアと大阪コーナー」や「社史コーナー」などが特色としてあげられます。

大阪いばらきキャンパス
Campus Map



「OICライブラリー」はB棟（立命館いばらきフューチャープラザ）です。



- ◆キャンパスの知的創造活動の象徴《知の杜》としての図書館
- ◆学習支援機能と研究支援機能を兼ね備えたキャンパス総合図書館
- ◆ゆとりと快適性、開放性のある長時間滞在型の図書館
- ◆目的に応じた多様な学習空間（プライベート空間と共同学習空間）をデザインした図書館
- ◆地球環境に配慮した図書館

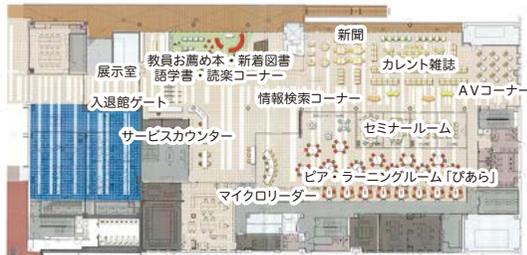
2F

ナチュラルな明るいアースカラーの内装にアクセントカラーの家具を配した、爽やかで明るく、活動的なフロア

2Fフロアマップ



エントランス



教員お薦め本や新着図書などの特設コーナー、新聞や学習用の新着雑誌、ゆっくり寛ぎながら閲覧できるAVコーナーを配しています。サービスカウンターでは総合案内やレファレンスサービスなどの各種サービスを行います。

ピア・ラーニングルーム「びあら」



特色

- 集積された図書資料やデジタルコンテンツなどの豊富な学術情報を活用し、学生同士の能動的な学びをサポートします。
- レファレンスサービス、図書館ガイダンスなど図書館の知的資源を積極的に活用した学習支援を行います。
- 共同学習に必要な施設・設備・サービスがワンストップで揃う利便性と、居心地の良い学習空間を提供します。



イメージ図

ピア・ラーニングルーム「びあら」

- セミナールーム (4室)：グループ学習、プレゼンテーション、図書館ガイダンス、授業 (単発) などに利用可能
- 可動式グループワークテーブル
- PC付大型ディスプレイ・テーブル・ホワイトボード
- 情報検索用PC・複合機
- サービスカウンター：各種問い合わせ対応、レファレンスサービスなど

デジタルサイネージ

図書館でのガイド機能や広報機能の集中化を行い、タッチパネル式の電子掲示板「デジタルサイネージ」を設置します。図書館の最新情報などをワンストップで確認できます。

コンテンツ

- 1 フロアガイド
- 2 サービス利用案内
- 3 各種ガイダンスの開催案内

3F

ナチュラルな明るいアースカラーの内装にアクセントカラーの家具を配した、爽やかで明るいイメージのフロア

3Fフロアマップ



イメージ図

閲覧席・オアシス席



和図書、レファレンスブックを中心に進路・就職コーナー、教職・ガイドブックコーナー、文庫・新書などを配しています。

- 電卓室
- 集中して学習できる個人ブース席 (キャレルデスク)
- 窓際に緑に向かって座る、ゆったりとした閲覧席とソファ一席
- 書架に囲まれたオアシス席

4F

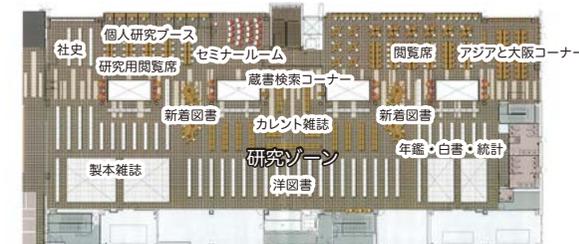
ややダークなアースカラーと、抑制的な色使いの家具による、落ち着いたイメージのあるフロア

4Fフロアマップ



イメージ図

研究者ゾーン



OICライブラリーの特色でもあるアジアと大阪コーナーや社史コーナー、洋図書、研究用の新着図書や雑誌、年鑑・白書・統計、製本雑誌などを配しています。

- ゆったりと落ち着いて研究ができる閲覧席
- 個人研究ブース (研究用)
- セミナールーム (研究用)
- 窓際に緑に向かって座る、ゆったりとした閲覧席
- 書架に囲まれたオアシス席

R_F ガーデンライブラリー

省エネルギーとエコロジーのために屋上を緑化し、図書館資料も持ち込める癒しの空間です。

衣笠図書館の思い出

～校友からのメッセージ～

第2回

和田 龍助さん

WADA RYUSUKE

2014年3月立命館大学法学部国際法務特修卒業。
卒業後、全日本空輸株式会社に入社し、
現在は羽田空港旅客サービス部に勤務。



私は学生時代の半分を図書館で過ごしたと言っても過言ではないかもしれません。というのは、正課学習の場としてはもちろん、学生ライブラリースタッフとして活動する場所でもあったからです。

私にとっての図書館とは、“周囲と関わりながら共に考える力”を身に付けるきっかけとなった場所といえます。私が2回生のとき、「ピア・ラーニングルーム(びあら)」が図書館に開設されました。びあらは、図書資料やPCを持ち込み、学生同士で会話や議論を交わしながら作業ができる空間です。静かなイメージで、ひとりで学習する場所であった図書館が、周囲の仲間と共に学習できる場所へと変わりました。

私が学んでいた専攻では、グループワークやプレゼンテーションに取り組む機会が多く、議論の場として「びあら」を利用し、周囲が持つ新鮮なアイデアや考えに触れながら、学びを深めることができました。

共に学ぶことで、様々な価値観に触れることができます。例えば、立命館大学には様々な文化的背景を持った留学生が集まっており、私も留学生と一緒に授業を履修したり、図書館を利用している留学生と、国際問題について議論したこともありました。留学生は時に、日本人とは全く異なった感覚や意見を持っています。それに対し、なぜ彼らがそう考えるのか背景を追うと、自らの視野を広げることに繋がりました。

現在、私は航空会社で勤務しています。飛行機を安全に運航するため職場内でチームワークを取ったり、世界から訪れるお客様のニーズに対して最適な提案をしたりと、“人”との関わりが欠かせません。図書館での学習で様々な価値観に触れた経験を活かし、いつも物事の背景を分析し、一歩先の対応ができるよう心掛けています。

図書館の魅力は図書資料だけではなく、人とのつながりから、新たな価値観を得る場として、ぜひ図書館を活用いただき、学生生活がより充実したものとなりますことを祈願しています。

高橋 聡さん

TAKAHASHI SATORU

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 執行役員
CCCデザインカンパニー 図書館カンパニー長

1972年大阪生まれ。
1995年立命館大学産業社会学部卒業。
1995年CCC入社。
TSUTAYAにおける音楽や映像商材の品揃え責任者などを歴任。この間、当時連結子会社でJASDAQにも上場していた株式会社すみやの取締役も務めた。
2012年からプロジェクトリーダーとして、CCCが指定管理者として運営を受託した武雄市民図書館リニューアルの企画から実際の運営まで、事業全般を担当している。13年4月から現職。



大学時代の図書館の思い出と言えば、友人達と昭和スポーツ名勝負ナンバー 1はなんじゃ?と熱く語った翌日に衣笠図書館で借りて見た「江夏の21球」のVHS。AV視聴ブースで鼻息荒く観た事を覚えている。残念ながらこれ以外の大学時代での図書館とのつながりが思い出せない。レンタル店では置いていないドキュメンタリーの映像が観られたことと、出てくるプロ野球選手が全員バンチパーマだったインパクトが強い記憶となって残っている。とにかく大学時代に図書館を使った覚えはほとんどない。

大学時代の僕は本よりも人に異常な興味を示していた。大学が休みになれば短期バイトでしっかり稼いで、その金を握りしめてバックパックを背負って世界中を旅した。いわゆる筋金入りのバックパッカーだ。旅先で出会う個性的な人との出会いが僕にとっては本であり、学べき教科書であり、教師でもあった。

かなり生意気だった僕は誰かが完成させた本という存在よりも自分がリアルに感じ、その目で触れ、体感することこそ知恵と知識を与える本当の手段なのだ!と息巻いていた。

そんな僕がなぜか今、佐賀県の武雄市で公立図書館の企画と運営を行っている。

経緯は詳しく書かないがまったくの偶然と運命がそうさせている。

大学時代に図書館で「江夏の21球」しか観たことない僕が企画する図書館なんて大丈夫か?と自分でも不安になるのであるが、僕には立命館で過ごした大学生時代のリアルな体験が企画する図書館の根底にある。

本からだけでなく人からも影響を受ける図書館。

絶対に本にならない近所の農家のオジちゃんの話聞ける図書館。そんなことを実現したくて年間100回以上のワークショップや講演会などのイベントを図書館で企画している。そこで人と人がぶつかり、知識を融合させ知の拠点になることを目指して。

実はそんなぶつかり合いから本が生まれ、出版されることが今の僕の夢。

一周回って、本の凄さと図書館の凄さを感じる。

図書館には レファレンスサービスがあります。

レファレンスサービスをご存知でしょうか。
お探しの資料が見つからないとき、他の大学に所蔵があるとき、
遠方から取寄せたいときなど、資料に関して困ったことがあれば、ご相談下さい。
レファレンスカウンターは皆さんの学習・研究をサポートいたします。

たとえば
こんなことも…

調べ方が分からない時は、
レファレンスライブラリアンがお答えします！

Q 初出・初版本って
どうやって調べるの？

例えば太宰治の『人間失格』など、近代の作家の場合なら『日本近代文学大事典』の作家の項目に情報があるかもしれません。『文芸雑誌小説初出総覧』や『太宰治大事典』など、特定の作家の事典もあります。参考図書を活用すれば、見つけることができます！

Q 琉球新聞や神戸新聞など、地方新聞の記事は
どうやって調べればいいですか？

RUNNERSで検索して、原紙の所蔵が無い場合でも、新聞データベースに収録されている場合があります。地方紙の場合は、「日経テレコン21（会員制）」、「G-Search」の代行検索サービスをご利用いただけます。検索や印刷は図書館スタッフが担当します。見出しの表示、本文の印刷には料金が発生しますが、図書館のカウンターでお申し込みいただけます。

衣笠図書館
入口正面の扉の奥に
レファレンスカウンターがあります。

レファレンスカウンター
受付・ご相談



(BKC)メディアセンター
サービスカウンターに向って左側が
レファレンスサービスです。



(BKC)メディアライブラリー
入口の正面カウンターの左側がレファレンスサービスです。



OICライブラリー

入口の右側にサービスカウンターが設けられます。
サービスカウンターに向って左側がレファレンスサービスです。

カウンターで申し込むことができるレファレンスサービスの種類

- 他大学へ本を見に行く！ ……所蔵調査
- 自分ではどうしても見つけられない、レファレンスに助けてほしい！ ……参考調査
- 学外から本の複写物を取寄せたい、本そのものを取寄せたい！ ……学外資料貸借・複写

MISSION!

幕末の京都について
分野を絞ってレポートを作成せよ



見つからない場合はレファレンスカウンターへ相談してみよう!

- 国立国会図書館デジタル化資料送信サービス
国立国会図書館の本が、図書館で読める!「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」が利用できます。探している本が立命館にもお近くの大学にもないとき、国立国会図書館で所蔵している本が図書館で見られるかもしれません。一度レファレンスカウンターにご相談下さい。



レファレンスサービスは大学図書館サービスの「かなめ」のひとつですが、はじめて相談するときは何をどう相談すればいいのかもわからず、戸惑う方も多いのではないのでしょうか。

本学では、レファレンスサービスのための専門的なスキルのある方に継続的にこのお仕事を担っていただけるよう業務委託をしています。レファレンスライブラリアンとはどんな方なのか。学生ライブラリースタッフがインタビューをしました。

—図書館を利用する学生にもっとレファレンスカウンターを身近に感じてほしいです。そこで、レファレンスライブラリアンにとって学生とはどんな存在なのか、まず伺います。

伏原：それぞれ関心をお持ちの分野についてはいろいろと勉強されておられるので私たちよりも詳しいのですが、何か悩むことや迷うことがあって相談に来られるわけですから、ときには自分の弟や妹のようにさえ思うこともありますね。

—そんな学生たちに、どのようにしてレファレンスカウンターを活用してもらいたいですか？

伏原：あまり些細な質問をしてはいけないと思っておられるのか、取って大上段な質問に置き換えて来られる方が多いですね。そこをカウンセリングのようにして探っていく、本当に知りたいことは何かを一緒に考えていくんです。レポートを書いていて気になった小さな疑問が、実は何か大きな問題につながるかもしれません。だから、どんなことでも私たちにちょっと質問してみしてほしいです。関連情報を得るだけでも、きっと役に立つと思いますよ。

—対応で気を付けておられることは？

岡田：どこかに資料があるかもしれないものを「ない」と決め付けることはしないようにしています。他大学の図書館やデータベースなど、思いつくとこはすべて調べて、それでもない場合は「この範囲にはなかった」とか「見つけるのが困難です」というように回答します。「ない」と回答すると、そこでその研究が止まってしまうから。

伏原：知らないことは「知らない」と言うことですね。知ったかぶりをして、相談に来られた方に不利益をもたらすのが一番いけません。自分が知らないことで今知らなければならぬことは何か、ということを考えてながら質問に対応しています。

—レファレンスライブラリアンの方をホンキにさせる質問ってどんな質問ですか。「この質問、絶対に解決してやる!!」みたいな。

伏原：質問を受け付けいたら、ジャンルやケースから、あの事典とこのデータベースを使って、などといったプランを立てていくのですが、そのプランが簡単に立たないときは、やはり焦ります。焦ると同時にメラメラと燃えますね(笑)

—逆境に立たされると燃えるんですね！ 対応していて嬉しいと思うのはどんなときですか。

岡田：一度質問に来られた方が、そのときの質問とは別の事柄について、こちらが示したプランで一度調査をさせてから、また質問に来られるようなこともあります。そういうときは、回答した甲斐があったな、と思いますね。

—レファレンスとこれからの図書館との関わりについてお聞かせください。

伏原：最近は電子書籍などデジタル資料が普及して、図書館の存在自体が問い直されていると思います。そんな中でも、資料を介して人と人が直接交流できるようなアナログ関係は大切だと思います。

—「びあら」が出来てから、図書館は大きく変わったと思いますが。

岡田：そうですね。「びあら」で展開されている学習スタイルとレファレンスサービスのコラボレーションは今後の課題だと思います。

—そのコラボ、とても面白そうですね。インタビューするまではカウンターの向こう側にいる遠い存在だったレファレンスライブラリアンの方を身近に感じる事が出来ました。

伏原：私たちも“役に立つ”存在として、もっと学生さんたちと関わっていきたくと思っています。簡単な質問でも大歓迎ですので、ぜひレファレンスカウンターに来てくださいね！

インタビュー実施日：2014年12月15日

インタビューを受けてくださった
レファレンスライブラリアン紹介

(株)クレオテック
ライブラリーサービス部
衣笠図書館
レファレンスカウンター勤務

伏原朋子さん



岡田志織さん



インタビューの
学生ライブラリースタッフ紹介

齊藤涼さん
文学部3年生



廣森悠子さん
国際関係学部2年生



きっとこの本が好きになる

~学生ライブラリースタッフ推薦図書~

STUDENT LIBRARY STAFF

図書館で活躍する学生ライブラリースタッフに、利用者みなさんと一しょに読みたい推薦図書を紹介してもらいました。

法学部 法学科 3回生 原田 雅也 さん



「大学時代」
自分のために絶対やっておきたいこと
千田琢哉 著 (三笠書房) 2011年

多くの時間を自由に過ごすことができる分、自分自身の行動を自分で選択し決定しなければならない大学生活。毎日をどう過ごせばいいのか迷ってしまうこともあるでしょう。そんな時、この本は充実した学生生活を送るためのガイド役になってくれます。時間をかけずに読めて、読むたびに新しい発見がある、おすすめの1冊です。



産業社会学部 現代社会学科 3回生 有藤 萌 さん



私が「白熱教室」で学んだこと
石角友愛 著
(阪急コミュニケーションズ) 2012年
※現在はCCCメディアハウス社から出版されています

16歳で高校中退して単身渡米し、ハーバードでMBAを取得し、グーグル米国本社に入社した著者が、アメリカで学んだ「思考力」「議論力」「マネジメント力」などの生涯にわたって役立つ学びについて教えてください。

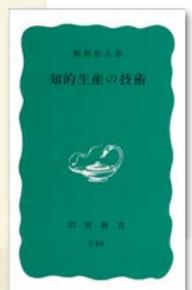


文学部 人文学科 3回生 木内 奎吾 さん



知的生産の技術
梅棹忠夫 著 (岩波書店) 1969年

第一版の刊行からまもなく半世紀を迎える「古典」といってもよい図書ですが、基本的な考え方は現代のようなIT社会においても通ずるところが数多くある「名著」です。大学生として、自ら知識を獲得し知的生産をしていこうという中で、考えるきっかけをくれる一冊です。



国際関係学部 国際関係学科 2回生 廣森 悠子 さん



○に近い△を生きる
「正論」や「正解」にだまされるな
鎌田 實 著 (ポプラ社) 2013年

高校までの勉強は、既存の「正解」をひたすら暗記するという連続だったのに比べ、大学では様々な「別解」の中から最も「正解」に近いものを模索することが多いと思いませんか。この本を読めば、勉強だけでなく日々の生活にも役立つ「別解」を見つけて豊かに暮らすヒントを得ることが出来ます。



理工学部 電気電子工学科 3回生 藤木 嘉樹 さん



理系のための人生設計ガイド
坪田一男 著 (ブルーバックス) 2008年

理系の学生の進路の一つとして、研究者という道があります。この本では、研究者として生きていくためにどのようなことをしていくべきかという人生設計についてよく書かれています。とても参考になると思います。

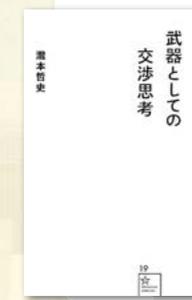


経済学部 経済学科 3回生 大谷 拓哉 さん



武器としての交渉思考
瀧本哲史 著 (講談社) 2012年

私が、この本を選んだ理由は、この本で書かれている交渉の技術がとても役に立つ技術だからです。サークルで交渉するときに私はこの本で学んだ技術を使い、様々な人と交渉して、話をうまく進めることができました。みなさんも読んで、使ってみてください。

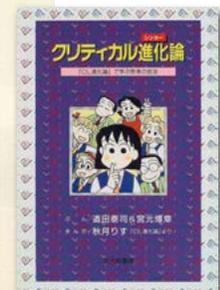


情報理工学部
メディア情報学科 3回生 北浦 優理奈 さん



クリティカル進化(シンカー)論:
「OL進化論」で学ぶ思考の技法
道田泰司, 宮元博章, 秋月りす 著 (北大路書房) 1999年

この本は学生、社会人にとって必要な批判的思考、クリティカルシンキングについて4コマ漫画を交えながら説明しています。かなり読みやすい内容となっており、自ら学ぶ「学生」になったばかりの皆さんにおすすめの本です。



スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科 4回生 御前 純 さん



素人のように考え、
素人として実行する
問題解決のメタ技術
金出武雄 著 (PHP研究所) 2003年

大学生のうち身に付けるべき力は、自ら考え、そのアイデアを実行する力です。海外で研究者を経験する著者が、とてもシンプルかつ力強いフレーズで教えてください。大学での学びを始める際にぜひ読んでほしい一冊です。



生命科学部 応用化学科 3回生 坂本 果穂 さん



わたしのひとり暮らし手帖
安心・快適・健康な毎日にする52のコツ
岸本葉子 著 (文春文庫) 2007年

実家を離れ一人暮らしを始める方や始めたいと考えている方はいませんか? この本は、社会人の方の一人暮らしを中心に書いてありますが、大学生にも参考になると思います。ぜひ読んで楽しい大学生活を送ってください。



薬学部 薬学科 3回生 重野 真生子 さん



常識を疑うことからはじめよう
ひすいこたろう, 石井しおり 著
(サンクチュアリ出版) 2013年

新しい友達、日々の講義や課題。頑張りすぎて少し疲れたら、休憩に読んでみてください。これまでとは違うものの見方に出会えるはず。ぜひ「規則その6」であなたの大学生活をより良いものにしてください。



映像学部 映像学科 3回生 西尾 美砂 さん



鴨川ホルモー 万城目学 著 (産業編集センター) 2006年

京都で大学生をするなら、この本を読まない! 主人公が「ホルモー」という謎の競技を行う中で個性的な人々と出会っていく物語です。映画にもなっており、その舞台として立命館大学も出ています。是非、小説とともに映画も見て楽しんでください。



学生ライブラリースタッフ紹介

STUDENT
LIBRARY
STAFF



法学部 法学科 国際法務特修 2回生
水上 駿さん

私 たち学生ライブラリースタッフは、利用者の皆さんに図書館をより快適に利用していただくために日々活動しています。本を正しい場所に戻す「配架」をはじめ、書架にある本の並びを整理したり、「図書館ツアー」や、HP上のデータベースのガイダンス、ぴあらのノートPCの貸出等を行っています。その他にも、「広報」、「ホームページ」、「図書紹介」などのプロジェクトと呼ばれる業務があります。館内の掲示物やパンフレットの作成、HPの編集、毎月特集した本の紹介等を行っています。図書館には、本やインターネット、データベース、DVDなど豊富な情報媒体が揃っており、これらを皆さんの学びにぜひ役立てていただきたいと思います。わからないことがあれば、お近くの学生ライブラリースタッフに気軽に声をかけてくださいね！図書館で皆さんに会える日を心待ちにしています。

皆 さんこんにちは。ライブラリースタッフチーフの原田です。ライブラリースタッフとは、皆さんの図書館の利用をサポートする学生スタッフです。本棚の整理をしたり、皆さんにオススメの本をピックアップしたり、図書館HPの更新、ブックカバーを作ったり、本や図書館に関わる作業を行っています。また、「ぴあら」の利用サポートも行なっています。「ぴあら」にいる白いジャケットを着た人も図書館のスタッフなんです。本のこと、ぴあらのこと、図書館について聞きたいことやお困りのことがあれば気軽に声をかけてください！皆さんがより心地よく、便利に図書館を利用していただけよう、チーフとして、他のスタッフと一緒に頑張ります！



経済学部 国際経済学科 2回生
原田 洋月さん

始動！ OIC 学生ライブラリースタッフ

大阪いばらきキャンパスに開設されるOICライブラリーでも、学生ライブラリースタッフが活躍する予定です。昨年、新たに採用された方を含め、経営学部と政策科学部所属の23名の学生スタッフが、それぞれのキャンパスでOICでの活動準備をしています。

僕 はOICライブラリーでチーフを務める経営学部新3回生の飯健一郎です。僕はライブラリースタッフになって今年で2年目です。メディアライブラリー、メディアセンターでの勤務や広報プロジェクトを通しライブラリースタッフとして立命館大学図書館を利用するすべての人が快適に利用できるように勤務してきました。日々の配架業務や書架整理、ぴあら勤務での利用者対応や環境整備。広報プロジェクトでのポスターやブックカバーの作成。これらを通して自分自身が大きく成長できたと思います。OICではゼロからのスタートです。衣笠やBKCで今まで築き上げられてきた先輩方の経験を参考にしながら、自分たちが1から築き上げていくのです。BKCと衣笠の図書館を超えられるような図書館を作っていきます。そして、新たな歴史の1ページを刻めるようOICライブラリーのライブラリースタッフ一同で頑張っていきたいと思っています。



経営学部 経営学科 2回生
飯健一郎さん

OIC 学生ライブラリースタッフの推薦図書



経営学部 経営学科 2回生
西澤 昌紘さん

日本語の作文技術
本多勝一 著 (講談社) 2005年

筆者が例文を挙げ、日本語の書き方を論理的に解説する実践的な本です。大学では文章を書く機会が増えますが、誤解されない、わかりやすい文章を書くことが大切です。特に第一章から第四章は、誰もが読むべきです。



政策科学部 政策科学科 2回生
増岡 千織さん

風が強く吹いている
三浦しをん 著 (新潮社) 2009年

弱小の大学陸上部が、無謀とも思える箱根駅伝出場を目指す。個性豊かな登場人物が、それぞれ悩み、互いにぶつかり合いながら、挑戦していく。時間を自由に使うことのできる大学生活。人生で今しかないこの貴重な時間をどのようにして過ごすのか。そんなことを考えるきっかけになる作品です。



「読楽コーナー」
学生選書活動報告

衣笠図書館、メディアライブラリーにおいて、恒例の学生選書活動を実施しました。選書スタッフのみなさんが作成したポスターや図書の推薦文から「この本を読んでほしい」という思いが伝わってきます。選書された図書は「読楽コーナー」に配架していますので、ぜひご利用ください。



衣笠図書館

今回のテーマは「**学生よ! 愛を読もう!**」。
恋人、家族、仲間…大切な人との出会いをテーマに、
4人の学生選書スタッフが図書を選定しました。



メディアライブラリー

社系の男子学生トリオが決めた今回のテーマは、
「**山?海?もっと広大な世界がここにある**」です。
哲学書からミステリーまで幅広い選書は
きっとあなたの世界を広げてくれるでしょう!

⇒ 学生選書活動は毎年実施しています。詳しくは図書館ホームページのNews&Topicsをご覧ください。

展示企画のご案内

衣笠図書館 1階エントランス、メディアセンター 1階エントランス、メディアライブラリー 2階入口丸テーブルなどで、適宜、展示企画を実施しました。2014年度に実施したテーマは、自校史、祇園祭、夏目漱石、震災と図書館、加藤周一文庫、教員お薦め本、ちくま新書絶版本からの20冊などです。2015年度も、図書館の資

料の紹介や、図書館が提供するさまざまなサービスを利用する切っ掛け作りになるような展示を企画していく予定です。

新しくオープンしたOICライブラリーには、2階入口左側に展示スペースが設けられています。大阪や茨木市のこと、アジアや世界のことを意識しながら、図書館らしい展示をしていきます。

Library Navigatorの発行回数が変わりました

これまで、年2回(11月・3月)発行していたLibrary Navigatorは、今年度から年1回(3月)の発行になりました。

図書館情報は図書館HP、新着図書や先生のお薦め本については、学生ライブラリースタッフが提供しているサイト「図書館へ行こう」をご覧ください。



「図書館へ行こう」URL

<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/mr/lib/2009lshp/lstop.html>

留学生アンケートを実施しました

図書館ではサービスの充実・改善に役立てるため、本学の正規課程で学ぶ全外国人留学生を対象に2014年4月にアンケートを実施し、529名の留学生に協力いただきました(回収率42%)。それによると、約8割の留学生が週1回以上図書館を利用しており、9割以上が図書館の設備・サービスに満足している一方で、3人に一人の留学生が図書館で困ったことに遭遇しており、図書館として改善の余地があることがわかりました。図書館としては、留学生の皆さんからいただいたご意見、既存のサービスの改善や新しいサービスについての具体的な提案を参考に、留学生にとっても活用しやすい図書館となるよう検討を進めています。